



いずみさの昔と今 第276回

「人々の信仰と共同体」

前回に引き続き、歴史館いずみさのにて開催中の秋季特別展「祈りと願いと信仰と」に関連した話題をお送りします。

古来より人々は協力して生活を行うため、集団としての結束力を養ってきました。特に畿内（山城・大和・摂津・和泉・河内）では、中世（12、13世紀頃）より惣村と呼ばれる自治的な農村が登場するようになります。これは、山や水、用水など生活する上で欠かせないものを共有し、力を合わせて自治を行い、村としての共同体を維持するためにめでした。

共同体としての結束は、基本的に同一の信仰を有する集団である「講」を作ることが多く、お堂、寺・神社などの宗教施設を中心としています。泉佐野市域でも非常に数多くの講が存在しており、その内容も多岐にわたります。今回はこれらのうち、現在秋季特別展で展示中の古文書に関連して、長滝中の番に存在する天野座について紹介します。

天野座は長滝中の番札場小路（しょうじ）の住民で構成される座です。例年3月と9月の日曜日には小路の全戸が出席して当屋宅（とうやたく）で会食を行いました。当屋とは、神社の祭祀や講で神事・行事を主催し

たり世話をしたりする人や担当する家のことを指します。この当屋は、輪番制であり天野座では2軒の家が持ち回りで担当しました。3月の集会を先度講と呼び、9月の集会を天野講と呼んでいたようです。特に9月の集会では蟻通神社の神職により天野神社前（中の番）で神事が行われました。天野座の古文書によると天野座の年間行事には先度講、伊勢講、日待ちなど各種異質の行事を有していたことがわかります。

展示史料の天野座文書のうち「先度講帳」には、「先度講中より申し合わせ致し候て今迄二飯喰い候を此度与り朝壺飯二致し候相究め申し候」とあり、講の申し合わせで賄いを倅約することを取り決めていきます。この史料は寛政5（1793）年に作成されていることから倅約は寛政の改革の影響を受けた可能性もあります。このほか先度講が田を有し、その収入を講に充てていたこと、田地の売買を行うなど講財産の経営がかなりの規模になっていたことも物語っています。

同じく展示中の「寛政三年長滝 永代覚書帳 辛亥三月十六日」には、小路の者一同で取り決めた条々が記されています。たとえば他の字の者のうち、天

野講に入ることを希望する者があらわれた場合、六匁四分を新開新田費用として支払うことを条件に入講を許可するとあり、札場小路外の者の入講を認めています。

このほか、賄いの献立を記した文書には「めし・鯉節・豆腐・平（煮メのことか）」と記されており、江戸時代の講で食べられた食品がわかります。

これら江戸時代の天野座の文書は、江戸時代の講の実態を記す史料群です。普段お目にかかることのない貴重な村の講に関する古文書を展示する秋季特別展は、12月23日（祝）まで開催中です。みなさんのご来館をお待ちしています。



▲長滝天野宮

レイクアルスタープラザ・カワサキ歴史館いずみさの
☎469-7140 Fax469-7141
休館日 月曜日、祝日（祝日が月曜日の場合は月曜日と火曜日が休館）
開館時間 午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
入館料 無料

消費生活センターだより

見守りリー

相談はお早めにセンターへ!!

相談受付 午前9時～午後4時30分

南海線「泉佐野」駅前 ☎469-2240

投資（オーナー）商法にご注意

業者にお金が残ってれば全債権者の出資割合に応じて返金されますが、お金が残ってないと1円も戻ってきません。他にも大きな問題となった、有利な条件で出資を募ってお金を集め、破産した業者がいくつもあります。

例えば、和牛の繁殖牛を購入すると、生まれた子牛の売却益を配当するという和牛預託商法の業者は、2011年に破産しました。

他にも、磁気商品（磁気ネットワークス、磁気ベルトなど）を購入して業者に預け、レンタルオーナーとして登録し、業者が客に貸し出した料金をレンタル料としてもらっていたが、そのうちレンタル料の振込がなくなり、連絡がとれなくなった業者も、今年3月に破産しました。

高額な利子など、他と比較して非常に有利な取引は、消費者にとっても大きなリスクがあります。十分にリスクを検討して契約を判断してください。

相談は、**早めに消費生活センターへ**

